
スピン・オフ小説 あんたはすごい！

水本爽涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

【Nコード】

N3050X

【作者名】

水本爽涼

【あらすじ】

時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

第18回

それで、」と私が話し始めた時、ママが強烈な反動で遮り、語りだした。

「ちよつと！ これ見てよ、満君…」

ママが語尾を延ばす時は、ほぼ間違いない確率で話が長引くのだ。私は、しまった！ と思った。機先を制す、とは正にこのことではないだろうか。まあ、それは兎も角として、ママが指さした背後の酒棚には、なんと一昨日、話題になった水晶玉が飾られているではないか。しかもそれは酒瓶と酒瓶の間に置かれていて、カウンター席に座る私からすれば丁度、正面に見え、妙な違和感を醸し出していた。本来、酒瓶の類は、各種入り乱れてズラリと並んでいるから圧巻なのであって、酒を嗜む場に落ち着きを与えるのだ。私が早希ちゃんに感^かめて、ついつうっかり正面の酒棚を見ていなかったのが原因^かのだが、それにしても何も酒棚に水晶玉なんぞ置かなくてもいいじゃないか…とは思えた。

「なんか場違いでしょ？ こんなところへ置くなんて…」

ママは私の心底が読めるのではないかと思えるほどの確に私の疑問を説明した。

「あつ！ 云い忘れたわ。あの客さ、昨日、来たのよ〜。それも閉店間^たぎわ。堪^たったもんじゃないわ〜」

私が訊ねるところの話ではなくなつた。ママは機関銃を連射するかのように、けたたましく続けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3050x/>

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

2011年12月8日01時01分発行